

平成 23 年度第 6 回常務理事会議事録

日 時：平成 24 年 1 月 20 日（金）15：00～17：45

会 場：事務局 会議室

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岡井 崇、落合 和徳

常務理事：岩下 光利、嘉村 敏治、吉川 史隆、木村 正、上妻 志郎、峯岸 敬、八重樫 伸生、吉川 裕之

監 事：和氣 徳夫

第 64 回学術集会長：平松 祐司

第 65 回学術集会長：櫻木 範明

理事会内委員会委員長：竹下 俊行、水沼 英樹、水上 尚典、吉村 泰典

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹 事：上田 豊、金内 優典、北澤 正文、小林 陽一、榊原 秀也、佐藤 豊実、
下平 和久、高倉 聡、多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、中村 和人、
阪埜 浩司、藤原 浩、増山 寿、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

15：00 理事長、副理事長、常務理事の総数 11 名のうち、全員が出席し、定足数に達しているため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、小西 郁生理事長、和氣徳夫監事の計 2 名を選任し、これを承認した。

I. 平成 23 年度第 5 回常務理事会議事録（案）の確認 原案通り、承認した。

II. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総 務（岩下 光利理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

- ①松本清一名誉会員が平成 23 年 12 月 15 日に逝去された。葬儀は家族葬とし日程の公表は行われなかった。本年 1 月 15 日のお別れの会に弔電、生花を手配した。
- ②橋本正淑名誉会員が平成 23 年 12 月 29 日に逝去された。本年 1 月 8 日の告別式に弔電、生花を手配した。

(2) 総会運営委員会委員および決算委員会委員の推薦依頼について [資料：総務 1]

議長団から各ブロック代表者宛に総会運営委員会および決算委員会の委員推薦の依頼状を 1 月中旬に発送予定である。

(3) 平成 24 年度臨時総会資料作成タイムスケジュールについて [資料：総務 2]

(4) 委員会規定の改定について [資料：総務 3]

- ①各規定の改定案については昨年 6 月の幹事会で協議の上、修正を加えたものであるが、ご意見があれば事務局まで頂きたい。
- ②今後のスケジュールとしては、2 月 10 日常務理事会、2 月 25 日理事会に改定案を諮る予定である。

(5) 寄附金について

- ①本会の寄附金等取扱規程案を作成した。 [資料：総務 3-1]
- ②寄附税制について [資料：総務 3-2]
- ③東京都主税局課税部課税指導課長より、個人都民税の寄附金税額控除に係る事務の協力についての依頼を受領した。本会への東京都内在住の個人からの寄附金は個人都民税の控除対象になるため、この制度の周知と事務処理対応を求めている。機関誌およびホームページに掲載して会員への周知を図りたい。 [資料：総務 3-3]
本会としては個人から寄附金の申し出があった場合、居住地の都道府県および市区町村の寄附金についての条例を確認頂き領収書を発行することになる。

桜田 佳久事務局長「本会は現時点では国税の税額控除対象法人ではない。また本会の所在地である東京都都民税の税額控除対象ではあるが、現時点でこれ以外の道府県および文京区を含む市区町村の地方税の税額控除対象にはなっていない模様である。」

岡井 崇副理事長「国税等の税額控除の対象ではないが、所得控除の対象であるということによいか。本会への個人の寄附は少ないと思うが、法人はどうなるのか。」

桜田 佳久事務局長「個人からの寄附は所得控除の対象となり、また法人の寄附は損金算入できる。本会への個人経営のクリニック等からの寄附について、個人からとするか法人からとするかは寄付者側の判断による。」

小西 郁生理事長「今後、個人や企業から寄附を集めていくことになるので、寄附金等取扱規程を整備して必要な書類の書式などを決め、各種控除を利用できるように領収書等を発行する、というスキームを固めていく必要がある。」

(6) 若手医師確保に関するワーキンググループアンケート報告 [資料：総務 4、5]

平松 祐司委員長「若手医師からのアンケートには、参考になる様々な意見・要望が書かれている。また各大学や地方学会からのアンケートは会員専用ページ等にアップして還元したい。」

(7) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

1 月 11 日現在、入金済 5,475 冊、校費支払のため後払希望 19 冊。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会 特になし

(ハ) 周産期委員会

(1) ジノプロスト注射液の用法・用量の変更に関する要望書を、厚生労働大臣あてに日本産婦人科医会と連名で提出したい。 [資料：総務 5-1]

海野 信也委員長「製薬会社にも要望書を出して添付文書への対応を依頼することも考えている。」
本件につき特に異論はなく、全会一致で承認された。

(二) 女性ヘルスケア委員会 特になし

(ホ) 専門委員会評価会議を1月13日に開催した。[資料：総務6、6-1、6-2]

海野 信也委員長「専門委員会評価会議の意見書について、同会議としての意見書であるのにどうして運営、学術両委員長名となっているのか、また内規に定められている各委員会へのヒアリングは行われていないのではないか。」

岩下 光利理事「専門委員会評価会議と運営会議は内規で定められていたが、いままで開催されて来なかった。今回行うことになったが、時間が限られているため、専門委員会委員長にはお集まり頂かなかった。」

海野 信也委員長「意見書に書かれている内容はヒアリングを経た上でのものであれば納得も行くが、初めて実施される評価会議の意見書が2名だけの署名で正式なものとして提出されることには問題があるのではないか。」

岩下 光利理事「実際には評価会議委員4名が出席して議論を行っている。」

海野 信也委員長「専門委員会へのヒアリングなく、また意見書の署名は2名であるなど、評価会議の意見書として要件を満たしていないと思う。一旦この意見書を撤回し、もう一度第1回評価会議を開催しヒアリングを行った上で再度意見書を提出して頂きたい。」

吉村 泰典委員長「現段階では評価会議からの意見書というより要望書であり、これを受けて専門委員会の意見をヒアリングして意見書を作成する、ということでよいのではないか。」

小西 郁生理事長「この意見書を案として各専門委員会委員長にメールで回付して意見を頂き、その回答を検討の上で正式な意見書としたい。」

岩下 光利理事「専門委員会運営内規を検討しているが、評価会議を実施する以上きちんとやるということならば、いつ会議を行うか、ヒアリングをどう行うかなど、詳細にルール作りをする必要がある。」

吉川 裕之理事「専門委員会の継続的な活動にはそれなりの経緯と事情があるので委員長に聞いただけでは分からないこともある。委員会の場に評価会議委員が参加して確認すると誤解は生じない。」

岩下 光利理事「先生方の貴重な時間を可能な限り使わないように、そしてしっかりした意味のある会議となるように運営内規を考えたい。」

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省

①子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例基金の延長について、厚労省より各都道府県に添付事務連絡が通達されたので、本通達を本会ホームページに掲載して周知した。

②同省雇用均等・児童家庭局母子保健課より、母子健康手帳の様式の改正について通知があった。

本会機関誌に掲載して、会員への周知を図りたい。[資料：総務7]

厚生労働省母子保健課から母子健康手帳後半部分にあたる任意記載事項様式の改正と便色カードの作成等の要領についての通知を受領した。これも機関誌に掲載して会員への周知を図りたい。[資料：総務7-1、7-2]

③平成15年制定の「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」に則り、「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)」が2012年度に終了予定である。

2013年度から開始予定の「次期国民健康づくり運動」に関して、次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会(厚生労働省健康局が設置)から10年後に目指す姿や目標について、特段の意見があれば1月25日までに提出して欲しいとの依頼があった。

子宮頸がん・子宮体がん検診受診者の増加やHPV ワクチン接種率などの目標を設定すべきとの意見もあり、各専門委員会にも意見を聞いた上で本会意見を提出することにしたい。〔資料：総務8〕

小西 郁生理事長「政府の重要な根幹をなす健康政策であり、国民運動として具体的に都道府県ベースの活動に繋がるのであるから、本会としては提案を行いコミットしていくべきであると思う。」

吉川 裕之理事「HPV ワクチン接種率は、目標は設定できるが現状を正確には掴めていない。」

木村 正理事「閉経期の骨粗鬆症への取組みなどの要望を出してもよいのではないか。」

水沼 英樹理事「日本女性医学会としては総会の開催タイミングの関係で時間がとれないため、主体的に対応することは難しいが、意見の共同提出などの対応を検討してみたい。」

小西 郁生理事長「本会から文書を添えて要望を出したい。」

④本会の WHO 国際ワーキンググループ協力員の岩下理事あてに、日本 WHO-FIC 協力センターの発足記念レセプション（開催日時：2月7日 17:30～19:00、場所：東商スカイルーム）の案内が送られてきた。このセンターは ICD の改訂などの WHO 国際分類活動に協力する拠点として設置されたものである。これを機に本会の ICD への取組み体制について整理・確認しておく必要がある。〔資料：総務8-1〕

岩下 光利理事「2月のレセプションは自分が出席するが、用語のことなので教育委員会で今後、国際ワーキンググループ協力員を誰に依頼するかなどの検討をお願いしたい。」

⑤同省医薬食品局安全対策課より、「医療機器の不具合等報告の症例の公表及び活用について」周知依頼があり、本会ホームページに掲載して会員に周知した。〔資料：総務9〕

⑥同省医政局より、「独立行政法人国立高度専門医療研究センター理事長の公募について」周知依頼があり、本会ホームページに掲載して会員に周知した。〔資料：総務10〕

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本学術会議

日本学術会議より2月11日開催の学術フォーラム「東日本大震災を教訓とした巨大災害軽減と持続的社会実現への道」（於：日本学術会議）の案内を受領した。〔資料：総務10-1〕

(2) 日本医学会

①日本医学会より依頼があった、会長・副会長・幹事候補者の推薦に関し、本会からは現在の会長・副会長・幹事を推薦することとした。

②日本医学会法人化についてのアンケートを受領した。法人化の賛否と会費の算定方法についての回答を1月26日までに求められている。〔資料：総務11〕

嘉村 敏治理事「学会によって発言の重みが違うということは望ましくないので、臨床系と基礎系で会費算定を違えるというのはよくない。」

小西 郁生理事長「一般法人化については賛成とし、会費算定は案1として回答したい。」

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

(3) 日本癌治療学会

日本癌治療学会がん診療ガイドライン委員会子宮頸がん、子宮体がん及び卵巣がんの担当委員、協

力委員及び評価委員の推薦依頼があった。本件につき、日本婦人科腫瘍学会の宇田川康博理事長に委員推薦を一任したところ全員継続との回答があり、これを本会回答としたい。 [資料：総務12]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

(4) 日本糖尿病学会

同学会より、糖尿病診療に使用されているHbA1cについて、2012年4月1日より国際標準値として広く用いられているNGSP値を用いることとする旨の報告があった。従来のJSD値の取扱いなど、国際標準化の基本方針および表記の運用方針などが示されている。

[資料：総務12-1]

平松 祐司第64回学術集会長「これは非常に大きな変更であり、本会でもホームページなどを通して会員への周知徹底をお願いしたい。」

(5) 日本家族計画協会

同協会より松本賞選考委員会委員の推薦依頼があった。従来本会からは理事長が委員に就任しており、小西 郁生理事を推薦した。なお選考委員会は1月下旬～2月に予定されている。

[資料：総務13]

(6) 日本医療機能評価機構

日本医療機能評価機構主催の第10回EBM研究フォーラム（テーマ：診療現場で診療ガイドラインをいかに活用するか）の案内が送付されてきた。 [資料：総務14]

(7) 医療技術産業戦略コンソーシアム

同コンソーシアムが作成した「未承認医療機器を用いた臨床研究実施の手引き」をホームページに掲載した旨の案内が送られてきた。 [資料：総務15]

(8) マンモグラフィ検診精度管理中央委員会

同委員会から、新理事候補者の推薦依頼を受領した。同委員会としては現在の役員である千川産婦人科医院 土橋一慶先生とこころとからだの元氣プラザ 大村峯夫先生の重任を期待している。

[資料：総務16]

小西 郁生理事長「引き続き両先生に理事をお願いしたい。」

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

〔IV. その他〕

(1) 第14回GID（性同一性障害）学会〔開催日：平成24年3月17、18日、場所：岡山大学〕への後援依頼を受領した。経済的負担はなくこれを応諾した。

(2) 日本産婦人科乳癌学会から、同学会市民公開講座（開催日：2012年3月12日、場所：帝京大学医学部附属病院臨床大講堂）への後援依頼を受領した。経済的負担はなくこれを応諾したい。

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

- (3) マタニティーカーニバル実行委員会より、マタニティーカーニバル 2012 (開催日: 2012 年 7 月 7 日・8 日、場所: 大阪南港 ATC ホール) への後援依頼を受領した。経済的負担はなくこれを応諾したい。

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

- (4) NPO 法人乳房健康研究会より、ピンクリボンウォーク 2012 (開催日: 2012 年 3 月 25 日、場所: 日比谷公園) の後援依頼を受領した。経済的負担はなくこれを応諾したい。

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

2) 会 計 (岡井 崇副理事長)

- (1) 各部署・委員会に依頼した平成 24 年度事業計画・予算の取纏め結果と事業計画会議について

①平成 24 年 1 月 13 日の事業計画会議の協議結果について [資料: 会計 1]

岡井 崇副理事長「予算の審議は 2 月の会計担当理事会で行うこととして、今回は各業務の事業計画についてコメントを付すことにした。予算の大枠方針については、明確に支出が予想されるものに予算を付け、必要に応じて柔軟に追加査定を行うとともに、旅費については一律 10%カットすることとした。」
予算の査定方針につき、特に異論なく、全会一致で承認された。

和氣 徳夫監事「事業計画には、各部署・委員会の事業についての自己評価を行った上で新年度事業のどこに力点を置くかを示すというプロセスを経て頂きたい。さらに外部の目を入れてチェックすることも議論された。」

岡井 崇副理事長「事業計画会議では外部チェックまでは実施しなくても良いということになった。」

②平成 24 年度各部署・委員会からの予算申請及び事業計画 [資料: 会計 2、2-1]

桜田 佳久事務局長から平成 24 年度予算申請状況についての報告がなされた。

3) 学 術 (峯岸 敬理事)

- (1) 学術委員会

(イ) 会議開催

①第 4 回学術委員会、第 4 回学術担当理事会を 2 月 24 日に開催する。

(ロ) 優秀論文賞応募状況

- (2) プログラム委員会関連

(イ) 第 65 回学術講演会プログラム委員会

①シンポジウム演者選考委員会、特別講演演者選考委員会を 2 月 23 日に開催する。

(ロ) 第 66 回学術講演会プログラム委員会

①プログラム委員会 (シンポジウム課題選考) を 2 月 23 日に開催する。

4) 編 集 (上妻 志郎理事)

- (1) 会議開催

1 月 20 日に和文誌編集会議ならびに JOGR 編集会議を開催した。

- (2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況: 2011 年投稿分 (12 月末現在)

投稿数 985 編 (うち Accept 184 編、Reject 463 編、Withdrawn/Unsubmitted 163 編、Under Revision 31 編、Under Review 128 編、Pending 0 編、Expired 16 編)

(3) 和文誌のオンラインジャーナル化について

上妻 志郎理事「紙ベースの和文誌は現状のまま廃止・縮小せず、和文誌のオンラインジャーナル化を進めたい。オンライン化により検索機能の追加などを通して利便性が高まる。アンケートの回答総数は少なかったが賛成意見は多く、他学会の動向も含め、オンラインジャーナル化を進めたい。国立情報学研究所 (CiNii) からは有料で本会機関誌が検索できる。ここで PDF 化された過去データの一部は抄録集を含めてすでに本会に提供され保管されている。よってそれほど費用をかけずにオンライン化できると思う。和文誌は廃止しないでオンライン化を進めることについてご了解頂きたい。」

岩下 光利理事「CiNii とは契約を結んでいるのか。」

上妻 志郎理事「以前に契約を締結している。CiNii のサイトで見るとには有料だが、PDF データを提供してもらい、それを会員サイトで見られるようにすれば本会会員は無料で利用できることになる。」

小西 郁生理事長「紙媒体についてはどうするのか。」

上妻 志郎理事「1 割強の会員からは紙媒体の利用希望がある。他の主要学会もオンラインと併用しており、紙を全くなくすことは難しいと思うが、経費節減を考えるのであれば、希望者のみに配布する方法などは考えられる。」

岡井 崇副理事長「和文誌には原著論文は載っていないのだが、抄録集、特集記事や研修コーナーなどや学会情報などを検索して見られるということか。」

嘉村 敏治理事「CiNii の PDF に検索機能などはあるのか。」

上妻 志郎理事「著者検索、論文検索などの機能があり、利用のメリットは多い。」

平松 祐司第 64 回学術集会長「オンライン化は良いが、本会はメディカルオンラインに入っていないのか。また CiNii と同じようなものを本会で作成して無料で配信することは可能なのか。」

上妻 志郎理事「CiNii は国立の組織であるが、過去の細かな契約に関しては確認したい。」

小西 郁生理事長「オンライン化を進める方針でよろしいか。予算など具体的な検討を進めて次回の理事會に諮ってもらいたい。」

(4) JOGR の外国人のアソシエートエディターの導入について

上妻 志郎理事「JOGR には、科学雑誌としてのインターナショナルジャーナル、AOFORG のリージョナルジャーナル、JSOG のナショナルジャーナルなどの性格がある。ところが論文評価は日本人だけで行っているため、外国人のアソシエートエディター (AE) を導入してはどうかとの意見があり、ご承認頂けるようであれば来年度から導入したい。」

岡井 崇副理事長「年に 1 回参加してもらっても実質的な活動はできない可能性がある。論文評価に海外の観点を入れてもらうには余程うまく仕掛けを作らないと難しい。」

上妻 志郎理事「日本人 AE と全く同じようにやってもらうことを考えている。」

吉川 裕之理事「何回も会合を開くとすれば外国人には難しいが、AE の活動は単純に画面を操作するだけで会話を不要にして完結させている例もある。」

上妻 志郎理事「インターナショナルジャーナルとしては世界各地に AE を依頼することはあるが、JOGR は AOFORG のオフィシャルジャーナルであり AOFORG を考えた内容や編集方針を考えたいので、アジアから 1~2 名の AE を加えたい。編集会議の毎回参加は難しいとしても日本人 AE と同じようにやってもらいたい。」

和氣 徳夫監事「AOFORG のオフィシャルジャーナルであるならば 1~2 名では済まないのではないかと。構成国から広く選ぶ必要もあるわけで、人選のコンセプト、予算などよく検討する必要がある。」

落合 和徳副理事長「外国人 AE に期待する部分は大きい。まずは制度をスタートさせ、メール等で活動できる所は協力してもらって実態を固め、2 年に 1 度でも良いが学会実施時にエディターズミーティングを AOFORG 主催で開く、ということではよいのではないかと。」

小西 郁生理事長「外国人 AE 導入の方向で具体的な案を出してもらいたい。」

5) 渉外 (木村 正理事)

(1) 会議開催

- ①12月17日に第2回渉外理事・幹事会議を開催した。
- ②3月16日に第3回渉外理事・幹事会議を開催の予定である。

[FIGO 関係]

- (1)4月13日にFIGO Forumに来日のFIGO役員と、本会役員との会合を行う予定である。
- (2)XX FIGO World Congress (10月7~12日、於：ローマ)に、上田豊主務幹事、津田尚武幹事、増山寿幹事および事務局武田香代子職員を派遣し、2021大会招致の為の視察を行う予定である。

[その他]

- (1)台湾のProf. Tigris Tzu-Yao Leeを本会名誉会員に推挙したい。[資料：渉外1]
本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

6) 社 保 (吉川 裕之理事)

(1) 会議開催

- ①2月10日の第7回常務理事会終了後、第2回社会保険診療報酬改定提案ワーキンググループおよび第4回社会保険委員会を開催の予定である。
 - ②3月16日に第2回婦人科内視鏡悪性腫瘍手術に関する関連団体協議会を開催の予定である。
- 吉川 裕之理事**「これは本会の組織ではないが本会が主導して関連学会を集めて議論を進めている。外保連とも連絡を取り、婦人科内視鏡悪性腫瘍手術の難易度レベルの見直しなどを行いたい。」

- (2) 治験推進研究事業における治験候補薬及び治験候補機器の推薦依頼を本会ホームページに掲載したところ、会員から2件の推薦を受領した。 [資料：社保1、2、3]

- 吉川 裕之理事**「1件は問題ないが、もう1件については社保でヒアリングを行って推薦を決めるということではどうか。」
- 和氣 徳夫監事**「本会は推薦を依頼されただけであり、医師主導治験を進めたい日本医師会が責任をもって判断すれば良いのではないかと。」
- 吉川 裕之理事**「推薦数が多いと選別されることもある。学会の推薦には一定の責任がある。」
- 岡井 崇副理事長**「推薦数が多い方が有利であると考えた方がよい。一定の基準が満たされていれば数多く出す方針で対応した方がよいと思う。」
- 落合 和徳副理事長**「外科などは多数出している。多く出すようにしてほしい。」
- 小西 郁生理事長**「推薦には一定の審査が必要なので、当面は社保でヒアリング等を行った上で進めるようにしてもらいたい。」
- 岡井 崇副理事長**「担当は社保でよいのか。」
- 小西 郁生理事長**「専門委員会や臨床審査委員会という考え方もあるかもしれない。それは今後検討するとして当面は社保で2名程度のメンバーを決めて対応をお願いしたい。」

- (3) 外保連より、外保連名誉会長 出月康夫先生が1月1日にご逝去されたとの訃報を受けた。

7) 専門医制度 (吉川 史隆理事)

(1) 会議開催

第4回中央委員会を1月28日に開催する予定である。

(2) 日本専門医制評価・認定機構

1月10日に開催された「厚生労働省『各診療領域における専門医に関する調査研究』におけるご協力依頼及び趣旨説明会が開催され、梶山主務幹事が出席した。また、2月10日に開催される「専門医認定35学会との協議」に吉川委員長が出席する予定である。

- (3) 「若手のための産婦人科プラクティス」の製本印刷のための見積を受領した。印刷冊数は3,000部と5,000部で検討したが、費用が大きく変わらないことから5,000部としたい。 [資料：専門医1]

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

- (4) 専攻医指導施設の指定基準および区分指定基準の改定案について [資料：専門医2]

吉川 裕之理事「施設基準と研修目標の両面から専門医のレベルを上げていくことが必要であり、施設基準はこれで妥当と思う。一方研修目標は海外の状況や社会的要請も鑑みてハードルを十分な高さに設定した方がよい。そうすれば施設基準を厳しくする必要はなくなる。」

佐川 典正議長「新しい施設基準での適用はどのタイミングでなされるのか。」

吉川 史隆理事「この基準は25年スタートの専攻医から適用となるので、24年の中央委員会で総合型の認定を行う予定である。」

矢野 哲幹専長「25年からの適用の場合、研修の登録は10月だから、総会で承認されたらすぐに施設認定を行い、公表する必要がある。」

吉川 史隆理事「9月の中央委員会で認定することで進めたい。」

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

8) 倫理委員会 (落合 和徳委員長)

- (1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成23年12月31日)

- ① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：44 研究
- ② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：582 施設
- ③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：582 施設
- ④ 顕微授精に関する登録：510 施設
- ⑤ 非配偶者間人工授精に関する登録：16 施設

- (2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

1月6日現在申請259例 [承認226例、非承認4例、審査対象外18例、取り下げ1例、照会5例、審査中5例] (承認226例のうち7例は条件付)

- (3) 会議開催

- ① 「平成23年度第3回着床前診断に関する審査小委員会」を1月24日に開催する予定である。
(併せて、慶應義塾大学医学部倫理委員会からの着床前診断に関する学会見解伺いを受ける形で、慶應義塾大学医学部倫理委員会との意見交換会を行う。)
- ② [平成23年度第3回倫理委員会]を2月6日に開催する予定である。

- (4) 「第4回遺伝カウンセリング講習会」を7月16日(月祝)に東京コンファレンスセンター・品川において開催する予定である。

9) 教育 (八重樫 伸生理事)

(1) 会議開催

- ① 1月20日 常務理事会終了後に第4回若手医師企画の打合会を開催する予定である。
- ② 1月27日に平成24年度専門医認定審査筆記試験問題作成委員会を開催する予定である。
- ③ 1月27日に西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部産婦人科医育成奨学基金制度平成24年度分審査委員会を開催する予定である。
- ④ 1月27日に学会発刊書籍(産婦人科研修の必修知識ならびに用語集・用語解説集)電子版発刊に関する打合会を開催する予定である。

(2) 「産婦人科研修の必修知識2011」頒布状況について

1月11日現在、入金済5,392冊、校費支払のため後払希望67冊。

(3) 西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部産婦人科医育成奨学基金制度推薦状況報告

12月の第3回理事会等での案内の通り、締切日までには24名募集のところ20名の推薦状況であったため再度追加募集を行い、1月5日現在追加5名の推薦があった。教育委員会としては3名の推薦を頂いた1大学の優先第3位の方を除く24名への給付を考慮しているが、審査委員会委員に關係書類を事前郵送し、1月27日に検討して頂く予定である。

(4) 第4回若手医師企画に関してアンケートならびにポスターの送付

12月22日に標記企画に関するアンケートならびにポスターを専門医指導施設指導責任医宛に郵送した。アンケート回収のご協力ならびにポスターの掲示につきお礼申し上げますとともに、学術講演会時の若手医師企画への参加をお願いしたい。

10) 地方連絡委員会 (落合 和徳副理事長) 特になし

III. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (嘉村 治委員長)

(1) 会議開催 なし

(2) JOB-NET 公募情報について [資料: 広報1]

(3) ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について [資料: 広報2]

(4) ホームページアクセス状況について [資料: 広報3]

(5) 公開シンポジウム「東日本大震災に負けないー全国産婦人科医の連携」の動画配信を、本会ホームページから学会研究会.jpのサイトにリンクする形で12月21日より開始した。半年間配信継続の予定である。

(6) 「第5回産婦人科サマースクール2011 in 美ヶ原」のDVDを、本会ホームページから学会研究会.jpのサイトにリンクする形で動画配信したい。(次回サマースクール参加者募集に向け8月中旬まで配信)

本件につき特に異論なく、全会一致で承認された。

(7) バナー広告について

- ① 本会ホームページ会員専用ページに掲載中のキッセイ薬品工業バナー広告について、2012年2月から2013年1月まで1年間の掲載延長が決定した。

②現在掲載中のバナー広告の次年度継続に関して調査をしている。希望があればあらためて契約することになる。

(8) アネティス最新号について [資料：広報 無番]

2) 未来ビジョン委員会 (吉村 泰典委員長)

(1) 第4回未来ビジョン委員会を平成23年12月16日に開催した。 [資料：未来ビジョン1]

吉村泰典委員長「前回理事会の確認となるが、12月31日現在の会費納入者数により、対象ブロックには2名の1年任期の理事を選出して頂くことになる。役員および代議員選任規程の改定は2月の理事会でご議論頂く予定である。」

3) 震災対策・復興委員会 (岡井 崇委員長)

(1) 第2回震災対策・復興委員会を平成24年1月19日に開催した。

岡井崇副理事長「今後の対応については、マニュアルの作成に加え、学会なので内部被曝の妊婦・胎児への影響や、胎盤のセシウムなどの研究テーマを実施するかを検討している。」

4) 診療ガイドライン委員会 (吉川 裕之学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

①「産婦人科診療ガイドライン—産科編2008」頒布状況について

1月11日現在、入金済11,966冊、後払希望0冊。

②「産婦人科診療ガイドライン—産科編2011」頒布状況について

1月11日現在、入金済11,011冊、後払希望109冊。

(2) 産科編評価委員会 (海野信也委員長) 特になし

(3) 婦人科外来編委員会 (八重樫伸生委員長)

①「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編2011」頒布状況について

1月11日現在、入金済9,795冊、後払希望105冊。

(4) 婦人科外来編評価委員会 (峯岸 敬委員長) 特になし

吉川 裕之調整役「ガイドライン婦人科外来編は2月16日、産科編は3月25日に発刊から1年となるので、ホームページにアップする予定である。」

水上 尚典委員長「Mindsに本会のガイドラインを掲載・検索できるようにする件について日本医療機能評価機構に話を聞いて来た。ガイドラインはこの春から本会ホームページで公開するなか、Mindsを通して広く知ってもらうことは望ましいし、著作権保護もきちんとしている。掲載について前向きに対応して良いと考える。」

吉川 裕之調整役「本会あての正式な依頼を受けた上で、理事会にお諮りしたい。」

5) コンプライアンス委員会 (平松 祐司委員長)

(1) 利益相反情報開示請求の手続きについて [資料：コンプライアンス1]

平松 祐司委員長「各種委員会の委員長が利益相反情報の開示を求めた場合、理事会での審議承認を必要とするか、確認したい。」

吉川 裕之理事「外部への公開についての学会の対応も重要である。企業は細かく公開するが、学会の公開レベルとの相違を極力なくすようにした方が良い。本件については、利益相反の有無だけを開示する、

特に理由がある場合は金額までは開示する、としてはどうか。」

平松 祐司委員長「問題がある場合を除き、理事会には出さずコンプライアンス委員会で判断する方向で考えたい。」

本件については特に異論なく、全会一致で承認された。

吉村 泰典委員長「COI で金額を示す場合、収受は1年以上前のことなので記憶が曖昧で間違いが起こりやすい。確定申告を行う時期に調査を行うようにした方がよいのではないか。」

吉川 裕之理事「項目によっては遡って調べて提出するのは大変なものもあり、提出ルールを検討頂きたい。」

小西 郁生理事長「企業側の動きを見ながら入念に準備を行い、COI の内容や提出時期などについては提出しやすいルールを検討して理事会に諮ってほしい。」

- (2) 日本医療機器産業連合会から、「医療機器業界における医療機関等との透明性ガイドライン」が送られてきた。このガイドラインに沿って、平成25年度分を平成26年度から公開するとしている。
[資料：コンプライアンス2]

6) 医療改革委員会 (海野 信也委員長)

- (1) 平成23年度第1回拡大医療改革委員会について [資料：医療改革1、1-1]

平成23年度第1回拡大医療改革委員会を1月29日(日)に東京ステーションコンファレンスで開催する予定である。

- (2) 第5回「大学病院産婦人科勤務医の待遇改善策の現況に関するアンケート調査」結果を公表する前に記載内容の確認を依頼する書面を1月5日に送付し、12大学から修正依頼があった。

最終版については、各病院長に報告書と公表版を、各大学教授に報告書と詳細版を送付し、記者会見の際には報告書と公表版を提示することとした。 [資料：医療改革2]

本件については特に異論なく、全会一致で承認された。

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会 (竹下 俊行委員長)

- (1) 地方学会担当市民公開講座について [資料：男女共同1]

- (2) 女性の健康週間2012について [資料：男女共同2]

①1月26日に本会事務局会議室にてプレスセミナーを開催の予定である。

②産経新聞社発行のフリーペーパー「metropolitana (メトロポリターナ)」(2月10日発行)に女性の健康週間に関する記事を掲載の予定である。1月6日に竹下委員長が取材を受けた。

8) 若手育成委員会 (齋藤 滋委員長)

- (1) 第2回産婦人科スプリングフォーラムについて

参加申込み：地方産科婦人科学会医会推薦・49名、個人申込み・18名 合計67名
参加希望者に対し参加受付書ならびに最終参加意思確認を送付した。

- (2) 第3回産婦人科スプリングフォーラムについて

第2回の参加申込み結果を受けて、広報ならびに募集アナウンスについて再考の余地があるものと考えている。

- (3) 第6回産婦人科サマースクールについて

①開催日程：8月11日（土）から12日（日）
開催場所：ホテルメトロポリタン盛岡New Wing
募集人数：学生 100名、初期研修医 200名
募集開始時期：5月上旬 募集締切：6月15日予定

②オプショナルツアー（被災地支援ツアー）について
開催日程：8月10日（金）宮古にて宿泊、11日（土）サマースクールへ合流
募集人数：40名
訪問先：岩手県立宮古病院
佐藤 元昭院長にお話を伺うべく、杉山 徹教授に調整をして頂いている。

9) 臨床研究審査委員会（水沼 英樹委員長） 特になし

10) 医療安全推進委員会（岡井 崇委員長） 特になし

IV. その他 特になし

資料

1. 平成23年度第5回常務理事会議事録(案)
 2. 平成23年度第6回常務理事会業務担当理事報告並びに関連協議事項予定内容
- 総務1：総会運営委員会委員および決算委員会委員の推薦について
総務2：平成24年度臨時総会資料作成タイムスケジュール
総務3：日本産科婦人科学会規則・内規等の一覧（見直し用）
総務3-1：日本産科婦人科学会寄付金等取扱規程案
総務3-2：寄付税制について
総務3-3：個人都民税の寄付金税額控除に係る事務の協力について
総務4：若手医師確保に関するワーキンググループアンケート報告1
総務5：若手医師確保に関するワーキンググループアンケート報告2
総務5-1：ジノプロスト注射液の用法・用量の変更に関する要望書
総務6：専門委員会評価会議意見書
総務6-1：平成23年度専門委員会事業報告書
総務6-2：平成24年専門委員会事業計画・予算申請書
総務7：母子健康手帳の様式の改正について
総務7-1：母子健康手帳の任意記載事項様式の改正について
総務7-2：母子健康手帳における便色カードの作成等の要領について
総務8：次期国民健康づくり運動プランのご意見のご依頼について
総務8-1：ICD-11への改定に向けた対応について
総務9：医療機器の不具合等報告の症例の公表及び活用について
総務10：独立行政法人国立高度専門医療研究センター理事長の公募について
総務10-1：学術フォーラム「東日本大震災を教訓とした巨大災害軽減と持続的社会的実現への道」

総務 11：日本医学会法人化についてのアンケート
総務 12：日本癌治療学会がん診療ガイドライン委員会子宮頸がん、子宮体がん及び卵巣がんの担当委員、協力委員及び評価委員の推薦について
総務 12-1：糖尿病診療に使用されている HbA1c 国際標準化の基本方針および表記の運用方針
総務 13：松本賞表彰規定
総務 14：第 10 回 EBM 研究フォーラムへのご案内
総務 15：「未承認医療機器を用いた臨床研究実施の手引き」のホームページ掲載のご案内
総務 16：平成 24 年度新理事候補者の推薦依頼について
会計 1：事業計画会議の協議結果報告
会計 2：各部署・委員会からの平成 24 年度事業計画・予算の取り纏めについて
会計 2-1：平成 24 年度各部署・委員会事業計画・予算申請書
渉外 1：日本産科婦人科学会海外名誉会員該当者の報告(案)
社保 1：治験推進研究事業における治験候補薬及び治験候補機器の推薦依頼について
社保 2：会員からの推薦依頼書 1
社保 3：会員からの推薦依頼書 2
専門医 1：御見積書
専門医 2：専攻医指導施設の指定基準および区分指定基準の改定案
広報 1：JSOG-JOBNET 事業報告
広報 2：ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について
広報 3：JSOG ホームページアクセス状況
広報無番：アネティス 2011-12 冬号
未来ビジョン 1：平成 23 年度第 3 回理事会での決定方針
コンプライアンス 1：利益相反情報開示に関する手続き(案)
コンプライアンス 2：医療機器業界における医療機関等との透明性ガイドライン策定のお知らせ
医療改革 1：平成 23 年度第 1 回拡大医療改革委員会開催のお知らせ
医療改革 1-1：平成 23 年度拡大医療改革委員会兼産婦人科医療改革公開フォーラム
医療改革 2：「大学病院産婦人科勤務医の待遇改善策の現況に関するアンケート調査」結果報告書
男女共同 1：平成 23 年度地方学会担当市民公開講座一覧
男女共同 2：女性の健康週間イベント

以上